



01 地域の皆様の健康づくりを応援します ～豊川市民病院 総合健診室おすすめの健康診断～

脳ドック

脳疾患は自覚症状などの前触れがなく発症することが多く、未然に防ぐためには、現在の脳の状態を確認しながら、将来的な病気のリスクを診断する必要があります。脳のMRI検査、頸動脈エコー検査、心電図、血液検査などを組み合わせて行います。人間ドックはよく知られていますが、脳の検査は網羅されておらず、脳を調べるためには別途脳ドックが必要です。

※認知症を早期発見する目的の検査ではありません。

■ 脳ドックが推奨される人

- 40歳以上で、一度も脳ドックを受診したことがない方
- 高血圧、脂質異常症、糖尿病の診断を受けている方
- 肥満傾向な方
- 大量の飲酒、喫煙の習慣がある方
- 家族や近親者に脳卒中になった方がいる方

■ MRI検査が受けられない人

- 体内に金属がある方
- 閉所恐怖症など狭いところが苦手な方
- じっとしているのが困難な方
- 妊娠中、妊娠の可能性がある方

日時：毎週水・木曜日午前、金曜日午後

料金：40,810円（健康保険組合や会社等により個人負担金は異なります）

PET-CT

「がん細胞は正常細胞に比べて多くのブドウ糖を取り込む」という性質を利用して、ブドウ糖にごく微量の放射線放出物質をくっつけた薬剤

（以下FDG）を体内に注射します。すると、がん細胞は正常な細胞より多くのFDGを取り込みます。そこから放



出される微量の放射線をPET装置でとらえて、がん細胞の位置や大きさ、進行の度合いを調べます。

■ PET-CT検査の限界

- 腫瘍の大きさにより、PET-CTで見つからない場合があります。
- FDGはブドウ糖の代謝が盛んな脳や心臓・腎臓・膀胱などで強く集積してしまい、検出しにくい場合があります。（炎症や手術創、放射線治療部位にも集積する場合があります）

日時：主に毎週木曜日午前

料金：99,880円



※どちらの検査も、自覚症状がある場合は医療機関を受診しましょう。

予約電話：0533-95-0030

（平日8:30～17:00 総合健診室直通）

02 「長期収載品の選定療養」について



令和6年10月からの医薬品の自己負担の新たな仕組みとして、後発医薬品（ジェネリック医薬品）があるお薬で、先発医薬品の処方を希望される場合は、特別の料金をお支払いいただきます。

令和6年10月から後発医薬品（ジェネリック医薬品）があるお薬で、患者さんの希望により先発医薬品の処方を受ける場合に、特別の料金として、先発医薬品と後発医薬品の価格差の4分の1相当を自己負担していただく制度が始まりました。

長期収載品とは、後発医薬品のある先発医薬品のことをいいます。選定療養とは、追加の費用を支払うことで受けることができる医療サービスの一種のことをいいます。患者さんの希望により長期収載品の処方を受ける場合には、選定療養の対象として特別の料金のご負担をお願いすることとなっています。

医療上の必要性が認められるケースなど長期収載品の選定療養の対象とならない場合もあります。詳しくは厚生労働省のホームページ、かかりつけの医療機関、かかりつけの薬局でご確認ください。

後発医薬品について

後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関する基本的なこと



新たな仕組みについて

特別の料金の対象となる医薬品の一覧などはこちらへ



※QRコードから厚生労働省HPの関連ページにアクセスできます。

03 リハビリ通信 認知症予防



認知症予防の3つのポイントを紹介します。

① 食習慣の改善

食事は毎日欠かせない習慣であり、認知症の予防にも効果が期待できます。食習慣のポイントは以下の4つです。

- ① バランスの良い食事をとる
- ② 食べ過ぎない
- ③ 間食を控える
- ④ 塩分を制限する

② 運動習慣

認知症予防の観点からは、有酸素運動（軽めの負荷で長時間継続できる運動、ウォーキングなど）を中心とした運動が効果的です。

③ 対人接触を増やす

人とコミュニケーションを取ることは、脳の活性化が促され、認知症の予防に効果的とされています。

04 医師事務支援センターのお仕事紹介

スムーズな診療をサポート

医師事務支援センターは、令和5年4月に設置され、現在37名が、医師の事務作業を補助する職員（MA:メディカル・アシスタント）として外来フロア等に配属されています。MAとして従事するスタッフは、入職後6ヶ月間の研修の中で、医療保険や介護保険制度をはじめ、電子カルテの操作、医療安全に対する知識や個人情報に関する取扱いなど、厚生労働省が定める32時間以上の基礎研修を履修します。現場では、医師の指示のもと、文書の作成代行や外来診療の補助、診療に関するデータの管理・整理にあたるなど、医療現場になくはならない新たな専門職として活躍が期待されています。当院では、今後も、MAスタッフの実務能力の向上に努め、質の高い医療の提供に取り組んでいきます。

